

歴史的資源の観光資源化業務 ダイジェスト報告書

2017年3月30日

NPO法人 歴史文化研究所
株式会社 JTB北海道

1. はじめに～歴史的資源の意義～

● なぜ小樽に観光が？

需要の側面：高度経済成長での貯蓄の使い道として安近短観光需要が喚起

供給の側面：小樽運河保存運動のパブリシティ効果による誘導

● そのときの小樽は？

小樽の観光化には二つのギャップがあった

- ①「観光地化するほど落ちぶれていない」（世界的偏見）
- ② 出掛けて外貨を稼ぐ卸売業から迎えて外貨を稼ぐ観光業（不慣れなビジネス）

↓

昭和60年代の「小樽運河視察観光」が先行

小樽はまだ受け入れ準備もしていなかった

● これまで観光現象は？

明治34（1901）年 8月 朝里村山の上、畑394に朝里温泉旭風館開業（温泉観光）

大正 9（1920）年 6月13日 天狗山登山道路完成、山開き挙行（登山観光）

大正10（1921）年 3月 3日 内務省は手宮洞窟を史蹟に指定（旧跡観光）

昭和 9（1934）年 6月15日 オタモイ竜宮閣は披露宴開催（名所観光）

● これまでの観光と何が違う？

名所旧跡観光→安近短にともない多様化→地域文化観光

↓

小樽観光は「まちづくり観光」（平成18年観光基本計画）

- ①まちづくり運動が盛ん（まちづくり運動の果実が観光資源に）
- ②再利用モデルの現在進行形（動態保存）

● 今の小樽観光の大きな問題は？

①180度も違うビジネスモデル印象による消極性

②長らく続いた斜陽によって投資意欲減退

↓

市民の無関心＋小樽資本が少ない＝数的基幹産業とはなったが利益が少ない

●小樽へ訪れる観光客の印象は？

- ①Fantasy：輝→朧、響→染、湧→滲
 - ②Retro：人力車、蒸気機関車、屋形船、消火栓、石垣、長屋、小路とネオン
 - ③Slow：海の見えるカフェ、立ち止まる老人、変わらぬ街並み
 - ④Historical：銀行→ホテル、倉庫→ホール、石蔵→カフェ、古民家→民宿
- 上記の動機の頭文字：FRESH（新鮮）→小樽らしさが観光客にとっての新しさ

●小樽人の観光に向けた努力は？

- ①小樽市観光振興室：観光ポスターや外国語パンフレット作成等
- ②小樽観光協会：小樽雪あかりの路、小樽ゆき物語、小樽産しゃこ祭等
- ③民間：硝子、オルゴール、寿司などへの投資等

↓

欠如

- ①世論の集約：夢やビジョンを議論しコンセンサスづくり
- ②自助努力：オール小樽による観光戦略

↓

「小樽らしいビジョン」「小樽らしい戦略」「小樽らしい推進体制」が必要

●だから歴史的資源の観光資源化業務

小樽観光の特徴→歴史→近代史→現代に於ける近代の再利用
再利用しやすい近代史素材が残っている

↓

再利用されている顕在要素+再利用されうる潜在要素+マーケティング

↓

観光振興に向けたロードマップの提案

● 歴史的資源の活用体系～志再生へアレンジ～

なぜ現存する？（背景や志に思いを馳せる）

↓

なるほど！ってことは？（今に問いかけ温故知新）

↓

これいただき！（自分に問いかけ脚下照顧）

2. 業務の体系

ブランディング調査（資源調査）＋マーケティング調査（市場調査）



体系（ビジョン化）



具体的商品開発＋推進戦略

3. 資源調査の範囲と容量

●建造物

①潜在的（未利用）歴史的建造物 868棟→31棟

②顕在的（既利用）歴史的建造物 106棟

Word 81P Excel 45P PDF 108P JPEG 1518点

※総頁 234P 容量計 848.8MB

●産業遺産

①運河

取材：小樽市港湾部・小樽市総合博物館・NPO 法人 OBM

資料：『写真集小樽築港 100 年のあゆみ』『小樽學』『小樽港民』『小樽歴史年表』『石井作成小樽運河保存運動年表』『おたる案内人』『小樽運河保存の運動』

写真：市立小樽図書館・小樽市総合博物館・『写真集 小樽築港 100 年のあゆみ』

②銀行街

取材：『銀行の街小樽』・駒木定正・谷内馨一・旧三井銀行小樽支店研究会

資料：『小樽の建築探訪』『新宮商行百年史』『小樽の銀行小史』『おたる再発見』『小樽歴史年表』『小樽市指定歴史的建造物一覧』

写真：市立小樽図書館・小樽市総合博物館

③手宮線

取材：小樽市・旧三井銀行小樽支店研究会

資料：『小樽歴史年表』『小樽市ホームページ』『小樽保線区 開区50年区史』『北海道交通百年史』『札幌鉄道史』『北海道新聞』『小樽歴史年表』『おたる案内人』『踏切物語』『手宮線プラン』

写真：村住家・北海道大学附属図書館

④公園

取材：小樽市・旧岡崎家能舞台を生かす会・市立小樽文学館

資料：『小樽 RC 会報』『小樽市史第九卷』『小樽歴史年表』『小樽市史第二卷』『小樽の公共施設』『小樽市史第七卷』『小樽市史第八卷』『小樽市史第六卷』『花園町史』『小樽公園の碑文と銘』『毎日新聞』『おたる案内人』

写真：村住家・小樽市総合博物館・市立小樽図書館・小樽市広報広聴課

⑤水源地

取材：小樽市

資料：『小樽歴史年表』『おたる水道100年のあゆみ』『小樽ジャーナル』

写真：小樽市総合博物館・『小樽市史第二巻』

⑥第三埠頭

取材：国土交通省・小樽市産業港湾部港湾室・小樽商工会議所港湾振興プロジェクト

資料：『小樽の公共施設』『北海道新聞』『小樽市史第五巻』『小樽歴史年表』『写真集小樽築港100年のあゆみ』『みなと・おたるまちづくりシンポジウム報告書』『小樽市第三ふ頭及び周辺再開発計画』

写真：小樽市総合博物館・『写真集 小樽築港100年のあゆみ』・北海道大学附属図書館・市立小樽図書館

⑦防波堤

資料：『北海道ファンマガジン』『写真集小樽築港100年のあゆみ』『小樽港民』『小樽歴史年表』

写真：『写真集 小樽築港100年のあゆみ』・小樽市総合博物館・市立小樽図書館・『小樽築港工事報文 上巻』

Word 142P JPEG 175点

総頁 142P 容量計 202.7MB

●逸話

①鯨

取材：高島町役場調査棟札・小樽市総合博物館・おたる水族館・小樽海上保安部・旧青山別邸・鯨御殿

資料：『小樽歴史年表』『祝津町史』『世界大百科事典』『小樽市史第1巻』『ニシン漁家列伝』『北海道漁業志稿』『北海道立志編』『小樽歴史探訪』『小樽区外七郡案内』『鯨場史話』『赤岩今昔物語』『高島・祝津要覧』『龍徳寺開創老百五十年誌』『小樽新聞』『北海道タイムス』『BYWAY後志伍号』『読売新聞』『観光小樽』『鯨御殿』『小樽學』『北海道新聞』『北海道開拓記念館研究年報第2号』『鯨場史話』『北海道開拓記念館調査報告第38号』『北海道開拓記念館調査報告第19号』『北海道開拓記念館研究年報第2号』『茨木家寄贈資料目録』『近代都市の創出と再生産』『北海道開拓記念館研究年報第5号』『蜃気楼の神秘を探る』

②北前船

資料：『小樽歴史年表』『小樽市指定歴史的建造物一覧』『おたる案内人』『小樽市史第一巻』『小樽市史第二巻』

Word 87P Excel 5項目

総頁 92P 容量計 659KB

●現代

①景観

取材：小樽市・『路地裏の貌』

資料：『小樽市史第一巻』『小樽』『四季枚撰 小樽八景』『小樽八景』『樽樽源 HP』

写真：いろは堂・小樽市総合博物館

アンケート調査

②商店街

資料：『小樽中心商店街の歴史逸話』

写真：堺町浴衣提灯祭り実行委員会・K2・小樽市商店街振興組合連合会・小樽市総合博物館・市立小樽図書館・小樽市広報広聴課・北海道大学附属図書館・村住家・三川屋・『小樽市史』・小樽市総務課・佐々木一夫・栗寫たみ子・三ツ野篤久

③市場

資料：『小樽歴史年表』『北の港町 小樽』『小樽市史第十巻』『山田市政 3 期 12 年をふりかえって』『小樽三角市場 HP』『南樽市場 HP』『中央市場 HP』『小梅太郎の小樽日記 HP』『おたるくらし HP』『北海タイムス』『小樽市史第十巻産業編』『小樽市史第九巻』

写真：『小樽市史第九巻』『小樽市史第十巻社会経済編』

④神社仏閣

資料：『小樽仏教会百十年の歩み』『小樽歴史年表』『観光パンフレット』『小樽市指定歴史的建造物一覧』『写真集小樽』『本願寺小樽別院』『開創壱壱百五拾年記念誌 海雲山龍徳寺』『新しい風吹く丘 カトリック富岡教会』『小樽のスポット探訪』『小樽歴史探訪』『小樽市史第十巻文化編』

写真：『新しい風吹く丘 カトリック富岡教会』『開創壱壱百五拾年記念誌 海雲山龍徳寺』『写真集小樽』『本願寺小樽別院』

⑤習慣

取材：ワークショップ NO 1 市民の手で守る、育てる文化財～歴史文化基本構想へ向けて
主催小樽教育委員

資料：『広辞苑第四版』『世界百科事典』『小樽市史第十巻文化編』『阿波紀行・紀ノ川流域』

⑥自然

取材：小樽市総合博物館

⑦遺跡

取材：小樽市総合博物館

⑧アミューズメント

⑨宿泊施設

⑩碑

資料：『小樽を調べる』

⑪ロケ

資料：『小樽フィルムコミッション HP』『小樽市史第十巻』『シネマの風景』『北の舞台』

⑫意匠

資料：『小樽學』

⑬人物

取材：旧三井銀行小樽支店研究会

資料：『小樽ふれあい観光大使 HP』『小樽商工会議所 HP』『北海道出身の人物一覧 HP』『明治期の小樽の菓子』『明治初期のお菓子とくらし』『小樽の養鯉業』

⑭食文化

取材：ワークショップNO1 市民の手で守る、育てる文化財～歴史文化基本構想へ向けて
主催小樽教育委員会・SNS

資料：『小樽學』『小樽市総合博物館紀要』『ほっかいどうお菓子グラフィティ』

Word 444P Excel 6項目 JPEG 262点 PDF 1点P

総頁 451P 容量計 353.2MB

調査段階集計 総頁 919P 容量計 1405.34MB

4. 資源調査の方法

① 歴史調査

歴史調査においては主に『小樽歴史年表』『小樽市史』などを核とした様々な文献調査、そして実地調査や取材から背景や由来や変遷をまとめた。

② 物語性

歴史調査から見えてくる各分野の物語性を抽出。

③ 利活用分析

調査の最終段階では利活用分析として、具体的な観光商品素案を提起。ただし「分析」とする意味は、既存の商品コーディネートに終始することなく、何らかの施策をすることによって、新たな観光商品の可能性も探った。

5. 市場調査の方法

- ① 観光マーケティングの特性
- ② 観光の多様性
- ③ 世界の観光動向
- ④ 日本の観光動向
- ⑤ 北海道の観光動向
- ⑥ 道央圏の観光動向
- ⑦ 小樽の観光動向
- ⑧ 小樽観光マーケティング分析
- ⑨ 小樽観光の顕在ニーズ
- ⑩ 小樽観光の潜在ニーズ
- ⑪ 旅行申込方法分析
- ⑫ 交通手段分析
- ⑬ 単体分析

6. 体系

既存の観光素材コーディネート→「木を見て森を見ない」

潜在からビジョンイメージ→「森を想定して木をコーディネートする」

7. 調査・分析結果

■運河

- 移動や撤去が可能で北運河らしいデザインの「屋台」
- 都市形成を学ぶ観光起点とルート
- 小樽運河保存運動ミュージアム
- 北運河拠点づくり

■銀行街

- 日本遺産「銀行建築に見る世界の近代建築史」
- 銀行街再利用散策

■公園

- 社会教育ミュージアム公園

- イベント「小樽コンスポ・レクスポ大会」

- 都市形成過程散策

■手宮線

- 手宮線交流観光
- 手宮線沿線「私設ミュージアム」
- 手宮線沿線 DMV 観光
- 小樽発展史観光ルート

■水源地

- マイナスイオン観光「水源地教育環境」
- 勝納川 生活・産業の水物語り
- 「小樽の水」有効活用観光

■第三埠頭

- リマシオ構想 Re-Market City Otaru 「再市場都市小樽」
世界の骨董品市場「第三埠頭」

■防波堤

- 小樽北防波堤クルーズ
- 廣井勇 志・閃き・技術・人柄ツアー
- 小樽港文化ミュージアム

■鯨

- 祝津番屋村ツアー
- 祝津四季観光
- 日本遺産「祝津鯨文化ツアー」

■北前船

- 北前船文化徒歩観光
- 日本遺産「北前船ツアー」

■景観

- 私の中の小樽写真コンテスト
- 小樽心のランドマーク展
- ランドスケープ・コミッション

■商店街

- 商店街 Private Museum Vision
- 市民推奨の土産ギャラリー

■市場

- 市場型フードコート
- 小樽食文化市場

■神社仏閣

- 宗教と歴史的建造物ツアー
- 宗門名物ツアー

■習慣

- 小樽再利用ツアー
- 小樽先人博物館

■自然

- 冬期ファンタジー小樽ツアー
- 植物探索ツアー
- 小樽登山ツアー
- 小樽トラッキングツアー
- 小樽七つの丘伝説ツアー

■遺跡

- 小樽古代のミステリーツアー
- 忍路の古代と農業のコラボツアー

■アミューズメント

- レトロ乗物体験ツアー
- 硝子の街満喫ツアー
- 小樽徒歩圏ミュージアムツアー

■宿泊

- 小樽交流人ネットワーク結成
- 交流施設の利用促進
- 交流人の維持発展
- 公的ネットワーク

■碑

- 小樽文学観光
- 小樽誇り観光

■ロケ

- 小樽文化交流堂
- レガシー観光

■意匠

- 小樽意匠探索～デザインツアー～
- 小樽西洋探索
- 小樽設計意図探索

■人物

- 帰樽交流会
- 小樽貢献人物ミュージアム

■食文化

- 食文化メッセージ・バンク ～Food Culture Message Bank～
- コンセプト・カフェ～Concept Café～ (Confé コンフェ)

8. ビジョン

■ビジョンとは

観光資源（顕在・潜在）を調査する

↓

ある一定の法則性（地域性）が見えてくる（土壌）

↓

世界に誇り得るかを検討する（世界性）

↓

こういう整備をしたらこういう商品ができる（体系）

↓

いっそこういう観光都市になる（展望）→ビジョン

■ビジョンの効果

単なるスポット観光ではなく

↓

前後左右上下への広がり的印象付ける

↓

歴史的な土壌を確認

↓

一定の都市ビジョンに向けた体系を創造

↓

需要者・供給者ともに豊かな観光

■視点

ビジョン想定

↓

仕込み課題

↓

オール小樽戦略

■DMOの役割

小樽版DMOへの期待

↓

世界に誇り得る観光都市へ向けた情報収集＋戦略立案＋関係機関調整

■浮かび上がったビジョン

1. 再市場都市小樽ビジョン
2. ミュージアム都市小樽ビジョン
3. 着地型観光都市小樽ビジョン
4. 交流都市小樽ビジョン
5. アニメ都市小樽ビジョン
6. 日本遺産候補ビジョン

■観光資源化ツリー

